

生物系

日本の新しい農業経営の展望- ネットワーク型農業経営組織の評価

東京農業大学国際食料情報学部 教授 **門間敏幸**



研究の背景

これまでその取り組みがあまりにも伝統的な日本農業のイメージとかけ離れているため注目されてこなかった新たな農業経営組織が誕生してきています。こうした新しい組織経営体を我々は、「中心となる農業経営者が知識やノウハウ・技術開発・情報の受発信などの手段を活用して、一定の地域範囲もしくは全国で同様な経営目的・形態をもつ農家を統合して経営の標準化を実現して多様な実需者・消費者ニーズに対応するフランチャイズ型の農業経営」と定義して、当該経営組織の構造や機能、そして組織構成農家間の関係を評価するための理論と、新しい組織経営体の心臓部となり、常に新しい血液を組織参加農家に送り続けて持続的な発展を支えているナレッジ(知識)のマネジメントの解明をめざしました。

研究の成果

本研究の最大の成果は、フランチャイズ型農業経営組織を、さらに包括的な概念であるネットワーク型組織として把握し、その組織の構造と活動の特性を統一的に評価するために、組織間関係論と取引費用アプローチに基づく分析枠組みを開発したことです。この分析枠組みは、分析対象とする組織の活動を支えるインプット組織と、組織の活動成果の主たる受け手となるアウトプット組織の影響関係を分析する組織セットアプローチと、中心組織と参加組織の資源の依存関係やパワー関係を分析する資源依存アプローチを統合して、さらに取引費用アプローチを組み合わせてネットワーク型農業経営組織の活動特性を総合的に評価する方法です。この方法を様々なネットワーク型農業経営組織に適用して、その有効性を実証するとともに、フランチャ

イズ型農業経営組織の知識創造と普及の評価に野中が開発したSECIモデルや「場」の理論の適用が可能であることを検証しました。

今後の展望

我々の研究によって、今後の日本農業の柱となるネットワーク型農業経営組織の形成・発展プロセスを評価する分析フレームが解明されました。今後は、このフレームを適用した実証研究、さらには評価対象の特性に応じてより実践性の高い新たな分析フレームの解明が行われ、問題解決型の農業経営理論の構築が促進されるでしょう。

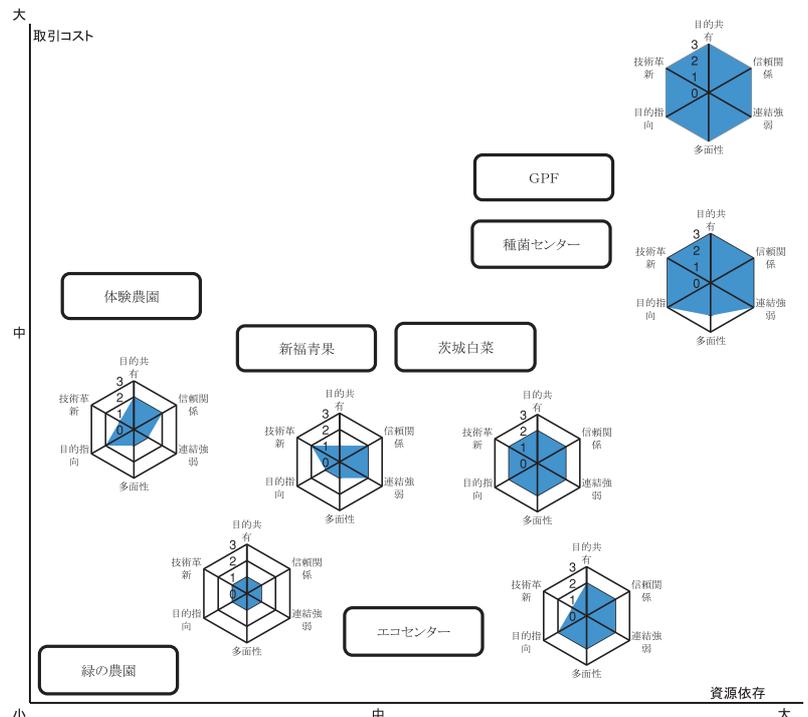


図1 組織間関係と取引コストに基づくネットワーク型農業経営組織の類型化

関連する
科研費

平成18-20年度 基盤研究(A)「知識・技術・情報の地域・空間統合によるFC型農業経営の創出と新農業経営理論の解明」